

意外な季語

東京の下町、隅田川沿いには松尾芭蕉のブロンズ像(座像)があり、日暮れになると向きを変えて川を眺めるのだそうです。勿論怪奇現象ではなく、モーターで動いているのですが、夜になったら川側から見て貰いたいという理由からだそうです。

夜に川を眺めながら松尾芭蕉さんが、どんな俳句を作っておられるのか気になるころですが(^_^)、俳句には季語が入っている事が原則とされています。ところが、「何故これがこの季語なの?」と

思ってしまう言葉を紹介させて頂きます。皆さんはどのように思われたでしょうか?

- ゴキブリ：夏
儂いというイメージのもとに使われる。
- 朝顔：秋
種を薬として使っていたことから。
- 相撲：秋
素人相撲や草相撲が初秋に行われていた事から。
- 墓参：秋
先祖の霊を迎える8月13日のお盆に墓参りをする事から。
- 七夕：秋
太陽暦の7月7日は、太陰暦で

は8月半ばに当たり、立秋を過ぎていて。

- 夕焼け：夏
夏は太陽が一番近くにあり、夕焼けも大きくて美しい
- 風船：春
春の空に飛ぶ風船より他にふさわしい空はないという考えから。
- シャボン玉：春
春風を連想するから。
- 甘酒：夏
江戸時代に天秤棒をかついで甘酒を売り歩く甘酒屋は、夏の風物誌だった。
- ボートレース：春
モーターボートではなく、オールを使って船を進めるレース。

ヨシナカ新聞

7月号

発行所

栃北陸ヨシナカ

東京営業所

TEL:03-3555-0796

K社員のフルト奮戦記

腹式呼吸で吹く感覚がわかり、芯のある音が出るようにはなったのですが、長く吹く事が出来ません。一難去ってまた一難とはこの事かと思いが、打開策を模索していたある日、音楽仲間とアンサンブルをする事になり、私はギターとブルースハープの担当になりました。

ブルースハープは穴が10個の小さなハーモニカですが、腹筋をよく使います。特に小さな音をピブラートで長く響かせるにはお腹に溜めた空気が徐々に出していかなければなりません。

久しぶりにハーモニカを吹いてそれを思い出し、フルートのロングトーンにもこの方法が使えるかもしれないと思った私は、早速フルートを取り出して試してみました。

素 麵

梅雨真っ盛りの今日この頃ですが、それを過ぎると夏本番です。夏と言えば素麵!。と、なんだかわざとらしいですが、素麵は約千三百年前の奈良時代に中国から伝来したと言われています。元々は素麵とは言わず『索餅(さくべい)』と言って、もち米と米粉を使って棒状にした駄菓子のような物だったのが色々変化していき、室町時代には『素麵』になって、麵つゆにつけて食べるというスタイルになったそうです。

太さはJAS規格で 1,3mmまでのものを素麵、1.3~1.7mmを冷や麦、1.7mm以上のものをうどんと規定されて

います。奈良県桜井市の三輪素麵、兵庫県の播州素麵(揖保の糸)、香川県の小豆島素麵が日本の三大素麵と言われています。

素麵に限らず麵は腰が命ですが、三輪素麵は極細で強力粉を使っているので非常に腰があります。また徳島の半田素麵は規格ぎりぎりの太さでさらに腰が強い為、讃岐うどんの歯ごたえに似た食間があると言われています(もともと讃岐うどんの原型が半田素麵で、半田素麵の原型が三輪素麵なので、讃岐うどんは三輪素麵の孫という事になります)。

美味しい食べ方としては、麵つゆで食べるのは勿論、椎茸の出汁も大

変美味しいです(奈良県出身の私は小さい頃からずっと椎茸出汁で食べていました)。また、今年は『そうめんつゆ革命』と言われていて、焼き肉風や担々麵風等の色んな麵つゆが販売されています。和風出汁が効いていて美味しいとラジオで高評価だった『こく旨カレー』という商品を試しに買って食しました。残念乍ら私の口には合いませんでしたが、これに懲りず、他にも試してみようと思っ



ステンレス豆知識(焼き入れ)

マルテンサイト系以外のフェライト、オーステナイト系では、何故焼きが入らないのでしょうか。

ステンレス鋼にかかわらず、焼入は常温からA1変態点以上に加熱して、オーステナイトという組織の状態から急冷してマルテンサイトという組織に変態

させて硬化させる方法です。一般の鋼の場合にも、基本的には炭素やマンガン・クロムといった焼入れ性を良くするための合金成分が必要で、純鉄やSS材などの低炭素鋼を加熱して焼入しても硬化しません。

オーステナイトステンレスはSUS304を基本鋼種とするCr-Ni鋼で、高温の状

態に加熱しても安定したオーステナイトの状態のため焼入硬化性はありません。

フェライト系ステンレスは18Crステンレスと称されているSUS430を代表鋼種とする鋼で、この鋼種も高温の状態に加熱してもフェライトの状態なので焼入硬化性はありません。